【様式】

令和6年度 学校マネジメントシート

学校名（ 四日市西高等学校 ）

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿		・自主・自律をモットーに、地域から信頼される活力ある進学校を目指します。
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿)【グラデュエーション・ポリシー】	・自ら学ぶ喜び、わかる楽しさを実感できる生徒。 ・生徒一人ひとりの持つ力を伸ばし、それぞれの目指す進路を実現できる生徒。
	ありたい教職員の姿	・教育の専門集団として力を高め、協働して活力ある教育活動を創造できる教職員。 ・「信頼」を軸に、生徒、保護者はじめ全ての関係者との絆を深め、安全で安心して学べる教育環境を創造できる教職員。

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		・生徒は、学習指導などを通して、粘り強く進路実現をしたいと望んでいます。しかし、やや受動的傾向があり、自分から積極的な行動に移せない面がみられます。 ・保護者は、様々な情報提供を受けて、子どもの成長を実感し、本人が望む進路選択をさせたいと望んでいます。 ・地域からは、地元の中学生が入学したいと思える、頼れる学校であってほしいと期待されています。	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待		連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
		・地域の保幼小中からは、模範となる高校生としての行動を期待されています。 ・保護者からは、生徒が自己実現を果たせるよう、希望する大学や上級学校などへ円滑に接続できる、確かな学力や生きる力をつける指導が期待されています。	・桜地域の高校として、本校の教育活動に理解・支援をしていただくとともに、忌憚のない意見や提言をいただきたい。 ・小中高の一層の連携を深め、地域全体で生徒を育む取組を一緒に進めていただきたい。
(3)前年度の学校関係者評価など		・防災訓練、地域での発表会、交通安全指導など、人との繋がる力を高め、高校生が地域貢献できる機会を多くして欲しい。 ・学力向上は推進するとともに、人権感覚を養い、人との関わり、健康・体力面を向上させる取組として、スキルトレーニングを実践する必要がある。	
(4)現状と課題	教育活動	・本校は創立 50 年目の普通科高校で、17, 116人の卒業生は地元をはじめ全国各地で活躍している。平成7年度に比較文化・歴史コース、続いて平成15年度には数理情報コースを新設し、普通科の中から、さらに学びの視野を広げ、難関大学への進学という自己実現を図りたいとする要望に応えることとした。平成25年度入学者選抜から、前期選抜でコース定員の25%、後期選抜で残り75%を両コースのくくり募集としています。 ・今年度、近隣4中学校(桜・菰野・三滝・常磐)からの入学者が全体の約 40%を占めており、本校の教育活動が地域から評価と信頼を得ていると判断できます。一方で生徒の学力幅や個性は以前よりも広くなり、一人ひとりの状況に対して満足いく高校生活や進路を実現させていくことが引き続きの課題です。	
	学校運営等	・本校は、690 人近い生徒が在籍する高校として、安全で安心して学べる教育環境づくりに努めています。 ・大規模地震等災害に備え、四日市市の指定避難所として地域住民の防災避難訓練等を受け入れています。 ・教職員の総勤務時間の縮減と勤務の平準化が課題となっていることから、教職員の健康管理に留意しつつ継続的に様々な取組を行う必要があります。 ・教員による不祥事が県内で発生していることから切れ目なく職務に対する責任感を認識させることや管理職に相談しやすい雰囲気作りに努める必要があります。	

3　中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	○学習指導 ①　ICTを活用した質の高い授業の創造に努め、生徒が自ら学ぶ喜び、わかる楽しさを実感出来るよう授業の充実を図ります。 ②　教科マネジメントを確立することにより、学びの仕組みを十分に機能させ、基礎学力の定着と自らの進路希望を実現するための、確かな学力の定着を図ります。 ③　学校図書館について、いつでも誰でも「使える」図書館を目指し、一人ひとりの居場所となるような環境づくりを進めます。 ○進路指導 ①　教職員は生徒の進路希望の実現に向けて、個人面談及びそのための情報共有の質の向上を行います。 ②　教職員は生徒の学習活動を重視し、希望実現に必要な学力の向上・定着のための支援の向上を行います。 ③　教職員は進路指導および高大接続にかかわる各種情報を整理、対応し情報発信を行います。 ○生活指導 ①　生徒の自己指導能力向上を図ります。 ②　高い規範意識と公共の場での倫理観を確立させます。 ③　学校行事・課外活動を通して活力のある西高生を育成します。 ○保健管理 ①　生徒の健康状態や健康課題を適切に把握し、生徒が自らの健康課題に取り組めるような機会を設けるとともに、教員・生徒が安心して学ぶことのできる安全で適切な学校環境を確保します。 ②　関係職員との連携をより充実させ、同じ見通しを持って生徒を支援します。 ○人権教育 ①　教職員は「人権教育はすべての教育活動の前提である」という認識に立って教育活動を行います。 ②　いじめ防止対策基本方針をふまえ、組織的に未然防止・早期発見・早期対応に努め、「いじめを許さない」学校づくりに取り組みます。 ③　人権学習を通じての気づきや学びを、人権問題の解決のために自分の生活や社会状況を変えていこうとする意識につなげます。
学校運営等	○学校運営全般 ①　高大接続改革、新学習指導要領の実施等の教育改革に対応しうる学習の仕組みや授業の在り方について、カリキュラム・マネジメント構築を図ります。 ②　教育活動全般にわたり効果的なマネジメントに努め、その結果をもとに学校関係者評価活動に取り組むことで、学校マネジメントの質を高め、教育活動の向上に努めます。 ③　教職員が対話を通して関係づくりに努め、業務の平準化を図り支え協力し合うことを通して組織能力を高め、やり甲斐を持って教育活動に邁進できる満足度の高い学校づくりをします。 ④　年休取得の促進や、定時退校日に定時退校できるよう業務を整理することなどを定着させ、教職員の総勤務時間の縮減に努め、健康管理と健康維持の取組を行います。 ⑤　コンプライアンスミーティングを定期的に開催することで教職員の不祥事を発生させない土壌づくりに努めます。

4　求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿【アドミッション・ポリシー】	・主体的に学習に取り組もうとする生徒。 ・高校卒業後の進路実現に向けた取り組みを、意欲的・継続的に行える生徒。

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

（例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。
【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。
【備考欄について】「※」： 定期的に進捗を管理する取組　「◎」： 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
1 学習指導の充実	（1） 授業交流に関し、プロジェクター等、ICT機器の利用促進を兼ね、「利用後アンケート」等を絡めたうえで再活性化を図ります。　※授業交流状況 （2） 総合的な探究の時間における具体的な指導内容及び標準的日程の確立を図ります。　※進捗状況 （3） 学校図書館について、教科や他分掌との連携を深め、読書実態や潜在的な要望を把握し、運営改善につなげます。　※アンケート実施		◎
2 生徒指導の充実	（1） 生徒の自己指導能力向上を図り、状況に応じて適切な行動がとれるように、規範意識やマナーの向上、美化意識の徹底、交通安全に対する意識の向上、自他の生命や人権の尊重などに取り組みます。 （2） 生徒や教職員が互いに積極的に挨拶をしあえる状況をつくることで、他者を思いやり、自らを大切にする態度を育て、生徒相互の人間関係を育む取組を推進します。　※講習実施及び指導状況		※
3 特別活動の充実	（1） ホームルーム活動や生徒会活動を充実し、生徒会執行部が中心となり学校行事や学校生活に関する話し合いを活発に行い、学校生活の充実を支援します。 （2） 部活動をとおして精神面や体力面を鍛え、競技力の向上とともに粘り強く最後までやりぬく姿勢や人間関係を学び、それぞれが最大の成果を発揮できるように支援します。　※生徒満足度	（年度末および適宜記載）	※
4 進路指導の充実	（1） 進路に関する知識や情報を収集・理解し、個人面談や進路検討会を通じて生徒個々の情報を教員間における共有を通じて進路実現への道筋を用意します。　※生徒満足度 （2） Chromebook 及びポートフォリオ教材であるカスタマイズ手帳「四西手帳」を活用してデジタルとアナログの両立を目指し、自発的な学習習慣、進路意識の育成を支援する。生徒自身の自己PDCAの構築を目指し学年と連携し、生徒の学習支援活動を行います。　※指導状況及び進路結果 （3） 生徒の進路実現のため、生徒個人に応じた多様な入試に対して指導の共有及び新課程入試における情報の共有を行います。またICTの活用を行い、生徒に対してガイダンスを行い個々に応じた進路実現を支援します。　※ガイダンス実施状況		◎
5 人権教育の充実	（1） 人権に関する広報活動を充実させ、日常生活に人権を意識した思考・行動ができる資質を養います。　※実施状況 （2） 人権教育推進計画のもと、人権LHRや人権講演会		◎

6 保健管理の充実	などを実施し、他者の声を聴き、話し合い、問題を解決するために努力する資質を養います。※アンケート分析 （1） 生徒自身が心身の健康状態をしっかり把握し、管理できるように促していきます。生徒の心身の健康状態の変化や問題点を早期発見するため、学年団等と連携を取ります。 ※学年団との連携状況 （2） 校内の安全点検を実施し改善していくことで、危機発生を未然に防ぎ、適切な学校環境衛生を確保します。 ※年2回以上 （3） 会議・研修会を利用し、教職員の保健・教育相談分野等への知識・理解向上を図ります。 ※年1回以上		※
改善課題			
（年度末に記載）			

（2）学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

（例）「組織運営」「研修（資質向上の取組）」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。
【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。
【備考欄について】「※」： 定期的に進捗を管理する取組　「◎」： 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
1 組織運営	（1） 目指す学校像の実現のため、カリキュラム・マネジメントを推進します。 ※実施状況 ① 学期ごとを目安に、各分掌、学年で年度当初の目標の達成度、課題、改善策を検討し、それを全体で共有し、即効性のあるPDCAサイクルを構築します。 ② 日常的に分掌、学年会において業務遂行に必要な情報が適切に共有、活用されることで、課題解決について議論が進展するように努めます。 ③ 企画運営委員会において当面の教育課題に加え、中長期的なビジョンについて協議します。 ④ 教育課題に対して、柔軟的かつ即効的な対応をするために、関係する企画運営委員でミィーティングを随時、開催します。 （2） カリキュラム・マネジメントを推進していくうえで、学校への信頼は不可欠です。学校信頼向上委員会を中心に、信頼向上に関して現状と課題、さらには直近の教育活動における留意点を確認し、職員全体に共有し、職員の不祥事根絶に向けた取組を行います。 ※職員研修の実施	（年度末および適宜記載）	※
2 研修・研究の推進	（1）高大接続改革における、大学入試共通テストや総合型選抜、学校推薦型選抜など新たな入学者選抜に適切に対応できるよう、情報収集や研修を進めます。 ※校内研修の実施 （2）ICT環境整備が進む中、従来の授業と、ICT活用の授業をどのようにリンクさせれば効果的な学習に繋がるかをテーマに研修会、情報交換を行い、研究を進めます。教員のICT活用技術を向上させる取り組みを進めます。 ※授業におけるICT利用状況		◎

3 業務改善と職員健康管理	（1） 日常的に教職員の健康管理に努めるとともにワークライフバランスの改善に向け行動します。 ※職員アンケート「健康面で不安を感じたことがない」55%以上 ① 休暇取得日数実績の向上に努めます。 ※休暇取得11日以上の職員85%以上 ② 毎月、定時退校日を定め全教員が定時退校に努めます。 ※定時退校率85%以上 ③ 全クラブにおいて、授業日以外の部活動休養日を週1日設け、休養に努めます。 ※実施率93%以上 ④ 会議時間が60分以内となるように努めます。 ※主要会議の85%以上 （2） 総勤務時間の縮減に向け継続して取り組みます。 ① 職場全体での時間外勤務平均時間数の削減に努めます。 ※前年比で－1時間 ② 当月時間外労働が45時間、年間時間外労働が360時間を超える職員の皆無に努めます。		※
4 情報提供	（1） 本校の教育活動をホームページやすぐーる、学年通信等により積極的に情報発信します。また、報道関係機関への情報提供を積極的に行います。 ※報道提供1回以上 ① 保護者の学校行事への参加を呼びかけます。 ② 桜地区自治会など、地域から参加要請のあった各種行事へ積極的に参加します。 （2） 50 周年記念事業に向け、校内体制の確立と、PTA 及び同窓会との連携を図り、事業の円滑な立案・実施を目指します。 ※同窓会との情報共有状況		※
改善課題			
（年度末に記載）			

6 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	（年度末に記載）

7 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	（年度末に記載）
学校運営についての改善策	（年度末に記載）

【様式】

令和５年度　学校マネジメントシート

学校名（　　四日市西高等学校　　）

1　目指す姿

(1) 目指す学校像		・自主･自律をモットーに､地域から信頼される活力ある進学校を目指します。
(2)	育みたい児童生徒像	・自ら学ぶ喜び、わかる楽しさを実感できる生徒。 ・生徒一人ひとりの持つ力を伸ばし、それぞれの目指す進路を実現できる生徒。
	ありたい教職員像	・教育の専門集団として力を高め、協働して活力ある教育活動を創造できる教職員。 ・「信頼」を軸に、生徒、保護者はじめ全ての関係者との絆を深め、安全で安心して学べる教育環境を創造できる教職員。

2　現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		・生徒は、学習指導などを通して、粘り強く進路実現をしたいと望んでいます。しかし、やや受動的傾向があり、自分から積極的な行動に移せない面がみられます。 ・保護者は、様々な情報提供を受けて、子どもの成長を実感し、本人が望む進路選択をさせたいと望んでいます。 ・地域からは、地元の中学生が入学したいと思える、頼れる学校であってほしいと期待されています。
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	・地域の保幼小中からは、模範となる高校生としての行動を期待されています。 ・保護者からは、生徒が自己実現を果たせるよう、希望する大学や上級学校などへ円滑に接続できる、確かな学力や生きる力をつける指導が期待されています。	・桜地域の高校として、本校の教育活動に理解・支援をしていただくとともに、忌憚のない意見や提言をいただきたい。 ・小中高の一層の連携を深め、地域全体で生徒を育む取組を一緒に進めていただきたい。
(3) 前年度の学校関係者評価等		・各分掌から出た改善課題について多忙化の中であるが時間を見つけて、全職員で共有を図る必要がある。 ・自分たちが決めた目標を達成できなかった現状分析を行い、目標数値を修正して改善を図る必要がある。 ・改善課題については「達成した」 という満足感を教員が得られるものにすべきである。
(4) 現状と課題	教育活動	・本校は創立４９年目の普通科高校で、１６，８８２人の卒業生は地元をはじめ全国各地で活躍している。平成７年度に比較文化・歴史コース、続いて平成１５年度には数理情報コースを新設し、普通科の中から、さらに学びの視野を広げ、難関大学への進学という自己実現を図りたいとする要望に応えることとした。平成２５年度入学者選抜から、前期選抜でコース定員の２５％、後期選抜で残り７５％を両コースのくくり募集としています。 ・今年度、近隣４中学校（桜・菰野・三滝・常磐）から入学者の約３分の１にあたる３６％であり、本校の教育活動が地域から評価と信頼を得ていると判断できます。一方で生徒の学力幅や個性は以前よりも広くなり、一人ひとりの状況に対して満足いく高校生活や進路を実現させていくことが引き続きの課題です。
	学校運営等	・本校は、730 人近い生徒が在籍する高校として、安全で安心して学べる教育環境づくりに努めています。 ・大規模地震等災害に備え、四日市市の指定避難所として地域住民の防災避難訓練等を受け入れています。 ・教職員の総勤務時間の縮減と勤務の平準化が課題となっていることから、教職員の健康管理に留意しつつ継続的に様々な取組を行う必要があります。 ・教員による不祥事が県内で発生していることから切れ目なく職務に対する責任感を認識させることや管理職に相談しやすい雰囲気作りに努める必要があります。

３　中長期的な重点目標

教育活動	○学習指導 ①　ＩＣＴを活用した質の高い授業の創造に努め、生徒が自ら学ぶ喜び、わかる楽しさを実感出来るよう授業の充実を図ります。 ②　教科マネジメントを確立することにより、学びの仕組みを十分に機能させ、基礎学力の定着と自ら設定した進路希望を実現するための、確かな学力の定着を図ります。 ○進路指導 ①　教職員は生徒の進路希望の実現に向けて、個人面談及びそのための情報共有の質を向上します。 ②　教職員は生徒の学習活動を重視し、希望実現に必要な学力の向上・定着のための支援の向上を行います。 ③　教職員は進路指導および高大接続にかかわる各種情報を整理、対応し情報発信を行います。 ○生活指導 ①　生徒の自己指導能力向上を図ります。 ②　高い規範意識と公共の場での倫理観を確立させます。 ③　学校行事・課外活動を通して活力のある西高生を育成します。 ○保健管理 ①　生徒の健康状態や健康課題を適切に把握し、生徒が自らの健康課題に取り組めるような機会を設けるとともに、教員・生徒が安心して学ぶことのできる安全で適切な学校環境を確保します。 ②　関係職員との連携をより充実させ、同じ見通しを持って生徒を支援します。 ○人権教育 ①　教職員は「人権教育はすべての教育活動の前提である」という認識に立って教育活動を行います。 ②　いじめ防止対策基本方針をふまえ、組織的に未然防止・早期発見・早期対応に努め、「いじめを許さない」学校づくりに取り組みます。 ③　人権学習を通じての気づきや学びを、人権問題の解決のために自分の生活や社会状況を変えていこうとする意識につなげます。
学校運営等	○学校運営全般 ①　高大接続改革、新学習指導要領の実施等の教育改革に対応しうる学習の仕組みや授業の在り方について、カリキュラムマネジメント構築を図ります。 ②　教育活動全般にわたり効果的なマネジメントに努め、その結果をもとに学校関係者評価活動に取り組むことで、学校マネジメントの質を高め、教育活動の向上に努めます。 ③　教職員が対話を通して関係づくりに努め、業務の平準化を図り支え協力し合うことを通して組織能力を高め、やり甲斐を持って教育活動に邁進できる満足度の高い学校づくりをします。 ④　年休取得の促進や、定時退校日に定時退校できるよう業務を整理することなどを定着させ、教職員の総勤務時間の縮減に努め、健康管理と健康維持の取組を行います。 ⑤　コンプライアンスミーティングを定期的に開催することで教職員の不祥事を発生させない土壌づくりに努めます。

４　本年度の行動計画と評価

（１）教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。
（例）「教育課程・学習指導」「キャリア教育（進路指導）」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。
【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。
【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組　「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
１　学習指導の充実	（１）　授業交流に関し、プロジェクター等、ＩＣＴ機器の利用促進を兼ね、「利用後アンケート」等を絡めたうえで再活性化を図ります。　**※授業交流状況**	・ICT 機器の利用により学校生活全般に満足している生徒が 84.8%であった。	◎

	（２） 総合的な探究の時間における具体的な指導内容及び標準的日程の確立を図ります。 **※進捗状況**	・進路探究委員会を各学期1回開催し在り方を協議した。	
2 生徒指導の充実	（１） 生徒の自己指導能力向上を図り、状況に応じて適切な行動がとれるように、規範意識やマナーの向上、美化意識の徹底、交通安全に対する意識の向上、自他の生命や人権の尊重などに取り組みます。	・2学期に交通安全協会の方から通学マナーの指摘を頂いた。自転車事故22件。	※
	（２） 生徒や教職員が互いに積極的に挨拶をしあえる状況をつくることで、他者を思いやり、自らを大切にする態度を育て、生徒相互の人間関係を育む取組を推進します。 **※講習実施及び指導状況**	・携帯マナー講座は1年を対象に実施。不適切な書き込みには注意をしている。	
3 特別活動の充実	（１） ホームルーム活動や生徒会活動を充実し、生徒会執行部が中心となり学校行事や学校生活に関する話し合いを活発に行い、学校生活の充実を支援します。	・アンケートで95%の満足度。可能な限り保護者対象に公開行事を実施した。	※
	（２） 部活動をとおして精神面や体力面を鍛え、競技力の向上とともに粘り強く最後までやりぬく姿勢や人間関係を学び、それぞれが最大の成果を発揮できるように支援します。 **※生徒満足度**	・アンケートで93%の生徒が部活動に頑張って取り組んでいると回答。	
4 進路指導の充実	（１） 進路に関する知識や情報を収集・理解し、個人面談や進路検討会を通じて生徒個々の情報を教員間における共有を通じて進路実現への道筋を用意します。 **※生徒満足度**	・3回の進路検討会で個々の合格可能性を探る。進路指導の生徒満足度96．0%	◎
	（２） タブレット端末「Chromebook」及びポートフォリオ教材であるカスタマイズ手帳「四西手帳」を活用してデジタルとアナログの両立を目指し、自発的な学習習慣、進路意識の育成を支援する。生徒自身の自己ＰＤＣＡの構築を目指し学年と連携し、生徒の学習支援活動を行います。 **※指導状況及び進路結果**	・Chromebook及びポートフォリオ教材「四西手帳」を並行してデジタルとアナログのハイブリッドな活用を行った。	
	（３） 生徒の進路実現のため、生徒個人に応じた多様な入試に対して指導の共有及び新課程入試における情報の共有を行います。またＩＣＴの活用を行い、生徒に対してガイダンスを行い個々に応じた進路実現を支援します。 **※ガイダンス実施状況**	・年間3回の進路検討会と5回の進路委員会を行い、情報共有を行った。外部講師を招いてｶﾞｲﾀﾞﾝｽを実施した。	
5 人権教育の充実	（１） 人権に関する広報活動を充実させ、日常生活に人権を意識した思考・行動ができる資質を養います。 **※実施状況**	・委員会を通じて取組を共有した。HPを活用した広報は十分ではなかった。	※
	（２） 人権教育推進計画のもと、人権ＬＨＲや人権講演会などを実施し、他者の声を聴き、話し合い、問題を解決するために努力する資質を養います。 **※アンケート分析**	・身体障がい者に対する差別を演題に濱野彰浩先生の講話を拝聴した。各学期末のアンケート内容は迅速に学年で聞き取った。	
6 保健管理の充実	（１） 生徒自身が心身の健康状態をしっかり把握し、管理できるように促していきます。生徒の心身の健康状態の変化や	・保健室来室者数は12月末現在835件（R4年度12	※

	問題点を早期発見するため、学年団等と連携を取ります。 **※学年団との連携状況** （２） 校内の安全点検を実施し改善していくことで、危機発生を未然に防ぎ、適切な学校環境衛生を確保します。 **※年２回以上** （３） 会議・研修会を利用し、教職員の保健・教育相談分野等への知識・理解向上を図ります。 **※年１回以上**	月末現在 879 件） ・計画通り 2 回実施。教職員だけでなく生徒も学校環境衛生に取組むことで意識向上を図りたい。 ・特別支援に関して 1 学年で情報共有会を実施した。全教職員での研修会は未実施。	

改善課題
・ＩＣＴ活用能力の向上に努め、１人１台端末を学力向上に活用できるように職員研修を継続していく。 ・教育相談件数が増加している実態を踏まえ、職員の相談体制を強化していかなければならない。 ・「四西手帳」とグーグルクラスルームの活用場面を明確にし、相互の長所を活かす取組を行う必要がある。 ・スマートフォンの校内使用等、校則について社会の変化に対応できるよう、さらなる見直しを図る必要がある。

（２）学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。
（例）「組織運営」「研修（資質向上の取組）」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。
【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。
【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組　「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
1 組織運営	(1) 目指す学校像の実現のため、カリキュラム・マネジメントを推進します。 ※実施状況 ① 学期ごとを目安に、各分掌、学年で年度当初の目標の達成度、課題、改善策を検討し、それを全体で共有し、即効性のあるPDCAサイクルを構築します。 ② 日常的に分掌、学年会において業務遂行に必要な情報が適切に共有、活用されることで、課題解決について議論が進展するように努めます。 ③ 企画運営委員会において当面の教育課題に加え、中長期的なビジョンについて協議します。 ④ 教育課題に対して、柔軟的かつ即効的な対応をするために、関係する企画運営委員でミィーティングを随時、開催します。 (2) カリキュラム・マネジメントを推進していくうえで、学校への信頼は不可欠です。学校信頼向上委員会を中心に、信頼向上に関して現状と課題、さらには直近の教育活動における留意点を確認し、職員全体に共有し、職員の不祥事根絶に向けた取組を行います。	・学年会及び分掌会で確認し、職員会議で全体共有して状況把握に努めた。 ・企画運営委員会を定期的に実施して生徒状況・進路指導状況の進捗管理を行った。 ・校内課題解決に時間を要し中長期的ﾋﾞｼﾞｮﾝの協議ができなかった。 ・懸案事項の解決のため臨時の企画運営委員会を開催し早期対応に努めた。 ・ｺﾝﾌﾟﾗｲｱﾝｽﾐｰﾃｨﾝｸﾞで「効果的であった指導」とを共有した。	※

	※職員研修の実施		
2 研修・研究の推進	(1)高大接続改革における、大学入試共通テストや総合型選抜、学校推薦型選抜など新たな入学者選抜に適切に対応できるよう、情報収集や研修を進めます。 ※校内研修 (2)ICT環境整備が進む中、「従来の授業と、ICT活用の授業をどのようにリンクさせれば効果的な学習に繋がるか」をテーマに研修会、情報交換を行い、研究を進めます。BYODが導入され、教員のICT活用技術を向上させる取り組みを進めます。 ※授業におけるICT利用状況	・大学や予備校主催の説明会(ｵﾝﾗｲﾝ含)で情報収集し生徒の進路指導に還流した。 ・ｷﾞｶﾞｽｸｰﾙｻﾎﾟｰﾀｰと情報担当教員が全教員対象に研修を実施しｽｷﾙ向上に努めた。教員が授業等でICT 利用を2回に1回以上行うように努めた。	◎
3 業務改善と職員健康管理	(1) 日常的に教職員の健康管理に努めるとともにワークライフバランスの改善に向け行動します。 ※職員アンケート「健康面で不安を感じたことがない」55%以上 ① 休暇取得日数実績の向上に努めます。 ※休暇取得11日以上の職員85%以上 ② 毎月、定時退校日を定め全教員が定時退校に努めます。 ※定時退校率85%以上 ③ 全クラブにおいて、授業日以外の部活動休養日を週1日設け、休養に努めます。 ※実施率93%以上 ④ 会議時間が60分以内となるように努めます。 ※主要会議の85%以上 (2) 総勤務時間の縮減に向け継続して取り組みます。 ① 職場全体での時間外勤務平均時間数の削減に努めます。 ※前年比で－1時間 ② 当月時間外労働が45時間、年間時間外労働が360時間を超える職員の皆無に努めます。	・職員アンケートは 60%と目標は達成。 4/1～1/13 で 82%の教職員が 11 日以上取得し達成。(特休含) ・4月以外の月は目標を達成した。 ・実施率 94%であった。 ・会議は 82%以上、60 分以内となった。進路関係の会議は時間を要した。 ・今年度は時間外勤務平均時間が増え、全体として未達成。 ・減少傾向だが皆無にはならず 1 月あたり数人が超えた。	※
4 情報提供	(1) 本校教育活動を生徒、保護者、地域社会へ効果的な情報発信に努めます。 ※報道提供1回以上 ① 保護者、PTA役員等に学校行事への参観や参加を適切に呼びかけます。 ② ホームページや安心安全メールを活用し学校の情報を積極的に発信します。 (2) 50周年記念事業に向け同窓会とも連携します。 ※同窓会との情報共有状況	・ヘルメット着用について報道取材を受け、生徒会役員が回答して情報発信を行った。 ・参加可能な行事について、保護者に参加を呼びかけられた。 ・教育相談日程や県教委からの掲載依頼情報を新たに発信しました。 ・今後 50 周年事業に向けて具体的な検討を行う必要がある。	※

改善課題
・クラス数及び志望者数の減少に対して、魅力ある学校作りを目指し対応を継続検討していかなければならない。 ・全ての教職員の時間外労働時間を４５時間以内に抑える目標を達成するための取組を継続しなければならない。 ・コンプライアンス徹底を図り、「信頼される学校」であり続けるため不祥事を発生させない組織作りを続ける。 ・教員定数が減少するなかで業務の精選と教員間の業務平準化に引き続き取り組む必要がある。

５　学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	・防災訓練、地域での発表会、交通安全指導など、人との繋がる力を高め、高校生が地域貢献できる機会を多くして欲しい。 ・学力向上は推進するとともに、人権感覚を養い、人との関わり、健康・体力面を向上させる取組として、スキルトレーニングを実践する必要がある。

６　次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	・教育相談を大切にし、生徒一人ひとりに対応できるように教育活動を行う必要がある。いじめ事案の未然防止、早期発見に繋がるよう人権意識を高める教員研修を進める。 ・ＩＣＴ教育の活用は進めるが、ＳＮＳの適切な利用や対人関係のトラブル回避を目的に講演会や啓発を行う必要がある。
学校運営についての改善策	・HP 等を利用し、学校情報を積極的に発信し続けることが必要である。 ・教員の負担軽減に努め、総勤務時間の縮減となるように対策を継続すべきである。 ・校則等の見直しを行うため生徒との意見交換を増やし、生徒（生徒会）との話し合いを通して、意見も取り入れられるようにするべきである。